

5 アトピー性皮膚炎と マイクロバイオーーム

The role of skin microbiome in atopic dermatitis

松岡悠美

MATSUOKA, Yuumi

大阪大学免疫学フロンティア研究センター皮膚免疫学特任准教授

Summary

正常細菌叢の獲得は、宿主の免疫構築に重要である。一方、アトピー性皮膚炎では、正常細菌叢にみられない黄色ブドウ球菌の患部への定着がみられる。この正常細菌叢の変容を dysbiosis と呼び、近年、疾患との関係が盛んに研究されている。本稿では、皮膚における正常細菌叢と、われわれが取り組んできた黄色ブドウ球菌の病原因子解析の概要と、dysbiosis と皮膚炎発症のメカニズムについて解説する。

Dysbiosis

細菌叢の乱れを指す。一般的に、dysbiosis となった細菌叢を構成する菌種の種類は減少し、多様性が低下している。dysbiosis となり全体としての機能が劣った皮膚や腸管の細菌叢と、さまざまな疾患との関連が近年明らかになりつつある。

クオラムセンシング

細菌などにみられる、自分と同種の菌の生息密度を感知して、それに応じて毒素などの物質の産生をコントロールする機構のこと。日本語では「集団感知」などと訳される。

KEY WORDS

細菌叢／アトピー性皮膚炎／dysbiosis／クオラムセンシング